

平成26年度 物理学科 夏の談話会

「表面・ナノ物理の最前線： トンネル効果からトポロジカル絶縁体まで」



講師：物性物理学専攻 平原 徹 氏

日時：7月17日(木) 16:30～17:30

場所：本館 H111 講義室

パウリの排他律で知られるWolfgang Pauliが“God made solids but surfaces were the work of the devil!”と述べたように、表面では物質の内部と違ったことが起きており、それを正しく理解するのは難しいと考えられていた。しかし走査トンネル顕微鏡をはじめとする多くの実験手法の開発とともに、表面科学は物理・化学・材料科学など様々な研究者が集う学際的なテーマとなっている。

特に物理的な観点からは、物質のトポロジカルな性質が発現するエッジとして、表面が最近注目されている。さらに表面科学的手法を用いれば物質を原子一層レベルで制御しながら成長可能であり、このような極薄物質の物性に注目が集まっている。

本講演では、表面科学・ナノ物理全般について解説したあと、トポロジカル絶縁体やシリセンなど最近のトピックスに触れ、今後の展望を述べる。

After that

物理学科 ビアパーティー



談話会終了後、物理学科のビアパーティーを開催します。

場所：本館2階284号室（物理学科輪講室）

会費：教授・准教授は支払済。

その他職員（1000円）学生：無料

談話会にも
是非ご参加
下さい